(ア)

連続"X線

(1)

特性,X線

(円)

運動エネルギー

(エ)

電子の持つ運動エネルギーがタングステンにあたるとき、 どれくらいの割合で運動エネルギーが失われるかは まちまちなのである。

そして失われたエネルギーが X線となるので、様々なエネルギーの109-ンの X線がでる。これが(イ)で答えた連続 X線の発生原理である。

そして、X線のエネルギーはE=hレで示される. エネルギーが大きい程、振動数レが大き、X線がでるということになる。(レが大きいと入が小さくなる。)

電子の運動エネルギーか、全て失われると、最もエネルギーの大きい×年泉が、発生し、二のときが最短波長入minとなる。 エネルギーの関係式をたてると、

$$\frac{1}{2}mv^2 = hV$$

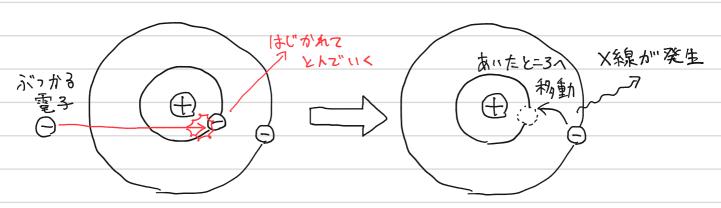
波の立ひ= f えより C= レス なので

$$\frac{1}{2} m v^2 = h \cdot \frac{C}{\lambda_{min}}$$

343 続き

(t)

(イ)で答えた特性X線は、ぶっかる電子のエネルギーが X線になるのではなく、軌道を回る電子が、軌道を 物動することで発生する。



外側の方がエネルギーが高く、内側に入るとエネルギーを失うことにつなり、その分がX線になるのだ。

エネルギーか。 $E_2 \rightarrow E_1 = 変化しているので、電子が失ったエネルギーは <math>E_2 - E_1$ となるので、

$$E_2 - E_1 = h \nu$$

となる。

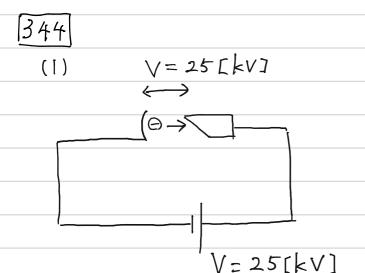
波の式ひ=fa より C= レみと書けるので

$$E_{2}-E_{1}=h\frac{C}{\lambda}$$

$$\therefore \lambda = \frac{hc}{E_{2}-E_{1}}$$

(11)

暗記事項である、波長が短いほど透過力が高い。



かけられた電圧により、電子がせれる 仕事WはW=&Vより

$$W = eV$$
= $1.6 \times 10^{-19} \cdot 25 \times 10^{3}$
= 4.0×10^{-15} [J]

された仕事分運動エネルギーとなるので"ニれか"答えとなる。

(2)

最短波長 λ_{min} は(1)のエネルギーが全て×線になったときである。 よって

$$4.0 \times 10^{-15} = h \cdot \frac{C}{\lambda_{min}}$$

$$\Rightarrow \lambda_{min} = \frac{h c}{4.0 \times 10^{-15}}$$

$$= \frac{6.6 \times 10^{-34} \cdot 3.0 \times 10^{8}}{4.0 \times 10^{-15}}$$

$$= 4.95 \times 10^{-11}$$

(3)

(a) 打5出す電子のエネルギーが大きくなるので、最短波長が矢室くなる

⇒ Aはなくずれる...

R、S は打ち出す電子のエネルギーに関係なく、ターケットの電子軌道のエネルギーで決まるので、ターケットが変わらないなら変わらない。 $\Rightarrow R, S$ は不変。

344 続き

(b)

電流を増せすと、飛びだす電子の数が増える. 数が増えるだけで、電子トゥずっのエネルギーは変わらないので 最短波長は変わらない、

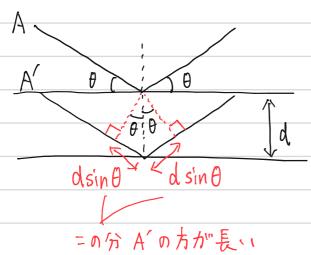
⇒Aは不変

ターケットを変えていないので、R、Sも変わらなり、 ⇒R、Sは不変。

※ 数が増えているので、X線の量(強度)は増え、 ク"ラフは上に大きくなるといえる。

(P)

AYA'n経路差左考える



経路差は 2d s'inθ_H (P)

(1)

(4)

|次の明線(m=1),
$$\theta = 6.0^{\circ} = 2\pi \times \frac{6}{360}$$
 [rad], $d = 3.0 \times 10^{-10}$ [m] の情報を条件式に代入する。 $2d\sin\theta = m\lambda$ $\Rightarrow \lambda = \frac{2d\sin\theta}{m}$

$$\frac{2d\theta}{m} = \frac{2 \cdot 3 \cdot 0 \times 10^{-10} \cdot 2\pi \times \frac{6}{360}}{m}$$

$$\frac{6 \cdot 3 \times 10^{-11} [m]}{(7)}$$

誘導に従って考えていこう.

(7)

中が大きくなると、1-Cos中は大きくなっていく。(*: 0≦中至90°) よって、7"ラフから読みとると、中か増加すると12年かするとわかる。 サイア)

 $\chi = f\lambda \xi$ り 光子のエネルギーは $E = h \lambda$ 電子のエネルギーは $K = -\frac{1}{2}m \lambda^2$

ニれで計算を行うと、エネルギーの保存の対は

$$\frac{hc}{\lambda} = \frac{1}{2}mv^2 + \frac{hc}{\lambda} \dots \quad 0$$

(ウ)(エ) 光子の運動量 は $P = \frac{E}{C} \xrightarrow{E=hV+1} \frac{hV}{C} \xrightarrow{V=f\lambda+1} \frac{h\frac{C}{\lambda}}{C} \rightarrow \frac{h}{\lambda}$ 電子の運動量 はP=mV

ニれで計算を行うと、運動量の保存の式は

前
入射方向:
$$\frac{h}{\lambda}$$
 = $m\nu\cos\beta + \frac{h}{\lambda'}\cos\phi$ (ウ)
垂直方向: 0 = $m\nu\sin\beta - \frac{h}{\lambda'}\sin\phi$ (ゴ)

②式も変形して

$$m V \cos \beta = \frac{h}{\lambda} - \frac{h}{\lambda'} \cos \phi \qquad (7)$$

3467 統主

(11)

③式を変形して

$$mvsin\beta = \frac{h}{\chi'}sin\phi \sim 3'$$

(+)

sin²θ+ cos²θ=1 を利用して、βを消去する.

$$(mv cos \beta)^{2} + (mv sin \beta)^{2} = (\frac{h}{\lambda} - \frac{h}{\lambda'} cos \phi)^{2} + (\frac{h}{\lambda'} sin \phi)^{2}$$

$$m^{2} v^{2} (cos^{2}\beta + sin^{2}\beta) = \frac{h^{2}}{\lambda^{2}} - \frac{2h^{2} cos \phi}{\lambda \lambda'} + \frac{h^{2}}{\lambda'^{2}} (cos^{2}\phi + sin^{2}\phi)$$

$$m^{2} v^{2} = \frac{h^{2}}{\lambda^{2}} - \frac{2h^{2} cos \phi}{\lambda \lambda'} + \frac{h^{2}}{\lambda'^{2}} \cdots \Phi$$

(7)

① 式
$$\frac{hc}{\lambda} = \frac{1}{2}mv^2 + \frac{hc}{\lambda}$$
 を m 停して m²v²の形を作ると $\frac{mhc}{\lambda} = \frac{1}{2}m^2v^2 + \frac{mhc}{\lambda'}$

$$\Rightarrow m^2 v^2 = 2mhc \left(\frac{1}{\lambda} - \frac{1}{\lambda}\right) + (7)$$

※ これ以降の式変形も自分で、追跡して

$$\Delta \lambda = \lambda' - \lambda = \frac{h}{mc} (1 - \cos \phi)$$

の結論まで、事けるようになっておきたい。

光子のエネルギーはE=hレ→hc 光子の運動量は $P= \frac{E}{C} \rightarrow \frac{hV}{C} \rightarrow \frac{hC}{C} \rightarrow \frac{h}{C}$ ニれも年り用する.

(ア)

の 類 運動量の変化は、左向きを正とすると $\Delta P = P - P$

$$\Delta P = P - P$$

$$= \frac{hV}{C} - \left(-\frac{hV}{C}\right) = \frac{2hV}{C}$$

(1)

1matl にしていがっかる 光子数をNとすると 文章にある「1m2あたり」の間に与えるエネルギーカ"エ」より、

$$I = E \cdot N$$

$$\Rightarrow N = \frac{I}{E}$$

$$= \frac{I}{hV} (1)$$

(中)

(ア)の運動量変化は、光子/個が/回で、鏡に与える力積と 等しく、 夫子はA[m²]あたりにもCsJで、NAt[0]からかるので 2hV. NAt

$$\frac{2IAt}{C} IN \cdot s$$

347 続き (I)

力績の式 (力績) = F t より、1s あたりの力積が、カFと等しい。よって = (力績) t.

$$= \frac{2IAt}{c}$$

$$= \frac{2IA}{C} [N]$$

エネルギー3、ロセンの先子の持つ運動量Pも考えると、

ニれと同じ軍動量を持つ電子の連さをひとすると

$$m \mathcal{U} = \frac{3.0 \cdot 1.6 \times 10^{-19}}{C}$$

の辺を2乗して、 $\frac{1}{2m}$ とかけ3と、左辺が軍動エネルは"ーの 形になるので"

$$\frac{1}{2m} (mv)^2 = \frac{1}{2m} \left(\frac{3.0 \cdot 1.6 \times 10^{-19}}{C} \right)^2$$

$$\Rightarrow \frac{1}{2}m v^2 = \frac{1}{2m} \left(\frac{3.0 \cdot 1.6 \times 10^{-19}}{C} \right)^2$$

m. Cの値をイヤカレて

$$\frac{1}{2}mv^{2} = \frac{1}{2-9.1\times10^{-31}}\left(\frac{3.0\cdot1.6\times10^{-19}}{3.0\times10^{8}}\right)^{2}$$

$$= \frac{1}{18.2 \times 10^{-31}} \left(1.6 \times 10^{-27} \right)^2$$

$$= 0.140 \times 10^{-23}$$

[J] his [eV] に直まと.

$$= \frac{1}{2 \cdot 9 \cdot 1 \times 10^{-31}} \left(\frac{3 \cdot 0 \cdot 1 \cdot 6 \times 10^{-19}}{3 \cdot 0 \times 10^{8}} \right)^{2} \times \frac{1}{1 \cdot 6 \times 10^{-19}}$$

$$= \frac{1}{18 \cdot 2 \times 10^{-31}} \cdot / \cdot 6 \times 10^{-35}$$

$$= 0 \cdot 0 \cdot 879 \cdot ... \times 10^{-19}$$

$$= 0.0879... \times 10^{-4}$$

$$\widehat{\mathbb{A}}$$
 $\widehat{\mathbb{A}}$

運動量の保存より

$$\frac{h}{\lambda_0} = -\frac{h}{\lambda_0 + 4\lambda} + P \quad (:(幾3の運動量) = \frac{h}{\lambda})$$

$$\Rightarrow P = h \left(\frac{1}{\lambda_0} + \frac{1}{\lambda_0 + 4\lambda} \right)$$

問題文で、示されている近似式

$$P = \frac{h}{\lambda_0} \left(1 + \frac{1}{1 + \frac{4\lambda}{\lambda_0}} \right)^{\frac{1}{2}} = \frac{h}{\lambda_0} \left(1 + \left(1 - \frac{4\lambda}{\lambda_0} \right) \right)^{\frac{1}{2}} = \frac{h}{\lambda_0} \left(2 - \frac{4\lambda}{\lambda_0} \right)$$

$$= \frac{2h}{\lambda_0} \left(2 - \frac{4\lambda}{\lambda_0} \right)$$

$$= \frac{2h}{\lambda_0} \left(\frac{4\lambda}{\lambda_0} \right)^{\frac{1}{2}} = 0 \times 1/4 \times 1$$

$$= \frac{2h}{\lambda_0} \left(\frac{4\lambda}{\lambda_0} \right)^{\frac{1}{2}} = 0 \times 1/4 \times 1$$

(原子の特っエネルギーの減少量) =(でてくる光子のエネルギー)という式は、光子も含んだ際のエネルギーの保存の式といえる。

$$E_2 - E_1 = hV$$

$$\Rightarrow E_2 = E_1 + hV$$

これを使って考えてみる.

図 1 より Ez, E, , V。の関係式を作っておくと Ez-E, = h V。… D

図2においては、運動量保存と、エネルギーの保存の式がたてられる。

運動量の保存

$$M \mathcal{V} = M \mathcal{V}' + \frac{h \mathcal{V}'}{C} \cdots 2$$

エネルギーの保存

$$E_{2} + \frac{1}{2}MV^{2} = E_{1} + \frac{1}{2}MV^{2} + hV' \quad \dots \quad 3$$

3 47

$$v' = v - \frac{h v'}{MC} = 0$$

①.②、を用いて③式からひ、E1, E2を消去する.

$$E_{2} + \frac{1}{2}Mv^{2} = E_{1} + \frac{1}{2}Mv^{2} + hv'$$

$$\Rightarrow (E_{2} - E_{1}) = \frac{1}{2}M(v^{2} - v^{2}) + hv'$$

$$\Rightarrow hv_{0} = \frac{1}{2}M(v^{2} - v^{2}) + hv'$$

350 新克生

$$\Rightarrow hV_0 = \frac{1}{2}M(v'+v)(v'-v) + hV'$$

$$\Rightarrow hV' = hV_0 - \frac{1}{2}M(v'+v)(v'-v)$$

$$\Rightarrow hV' = hV_0 - \frac{1}{2}M(v'+v)(v - \frac{hV'}{MC} - v)$$

$$=hV_0-\frac{1}{2}M(v'+v)(-\frac{hV'}{MC})$$

ニニマ"

$$h V' = h V_0 - \frac{1}{2} M \cdot 2 V \left(- \frac{h V}{MC} \right)$$

$$=h \cdot v_0 + M \cdot v_0 \left(\frac{h \cdot v_0'}{M \cdot c_0}\right)$$

$$\Rightarrow V'(1-\frac{v}{c})=V_0$$

$$\frac{1}{1-\frac{v}{c}} = \frac{c}{c-v}v.$$